



Attorney Docket No.: 8031-1029

PATENT

IN THE U.S. PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant: Hidehiko KAMEYAMA  
Appl. No.: 10/674,341  
Filed: October 1, 2003  
For: CELLULAR TELEPHONE SET, OPERATION  
CONTROL METHOD THEREOF AND PROGRAM  
THEREFOR

L E T T E R

Assistant Commissioner for Patents  
P.O. Box 1450  
Alexandria, Virginia 22313-1450

Date: October 30, 2003

Sir:

Under the provisions of 35 U.S.C. § 119 and 37 C.F.R. § 1.55(a), the applicant(s) hereby claim(s) the right of priority based on the following application(s):

<u>Country</u>	<u>Application No.</u>	<u>Filed</u>
JAPAN	2002-292611	October 4, 2002

A certified copy of the above-noted application(s) is(are) attached hereto.

If necessary, the Commissioner is hereby authorized in this, concurrent, and future replies, to charge payment or credit any overpayment to Deposit Account No. 25-0120 for any additional fee required under 37 C.F.R. §§ 1.16 or 1.17; particularly, extension of time fees.

Respectfully submitted,

YOUNG & THOMPSON

By Benoît Castel

Benoît Castel, #35,041

BC/psf

745 South 23<sup>rd</sup> Street, Suite 200  
Arlington, Virginia 22202  
(703) 521-2297

Attachment

US

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日            2 0 0 2 年 1 0 月    4 日  
Date of Application:

出 願 番 号            特 願 2 0 0 2 - 2 9 2 6 1 1  
Application Number:  
[ST. 10/C]:            [ J P 2 0 0 2 - 2 9 2 6 1 1 ]

出      願      人            埼 玉 日 本 電 気 株 式 有 限 公 司  
Applicant(s):

2 0 0 3 年    9 月 2 6 日

特 許 庁 長 官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今 井 康 夫



出 証 番 号    出 証 特 2 0 0 3 - 3 0 7 9 4 4 7

【書類名】 特許願

【整理番号】 14002122

【提出日】 平成14年10月 4日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04M 1/00

【発明者】

    【住所又は居所】 埼玉県児玉郡神川町大字元原字豊原 3 0 0 番 1 8 埼玉  
                        日本電気株式会社内

    【氏名】 亀山 英彦

【特許出願人】

    【識別番号】 390010179

    【氏名又は名称】 埼玉日本電気株式会社

【代理人】

    【識別番号】 100088812

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 ▲柳▼川 信

【手数料の表示】

    【予納台帳番号】 030982

    【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

    【物件名】 明細書 1

    【物件名】 図面 1

    【物件名】 要約書 1

    【包括委任状番号】 9100916

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 携帯電話機及びその動作制御方法並びにプログラム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 カメラ及び表示部を有する携帯電話機であって、  
前記カメラによる撮影画像を登録するメモリと、  
前記撮影画像の前記メモリへの最初の登録時に、画像が登録されていることを示すためのアイコンを作成して前記表示部へ表示すると共に、以後の撮影画像は前記アイコンに関連するものとして前記メモリへ登録する登録制御手段と、  
を含むことを特徴とする携帯電話機。

【請求項 2】 前記アイコンを前記表示部の待受画面に表示するよう制御する表示制御手段を、更に含むことを特徴とする請求項 1 記載の携帯電話機。

【請求項 3】 前記待受画面の前記アイコンの選択操作に応答して、前記メモリに登録されている画像の一つを呼び出して前記待受画面上に表示する呼び出し制御手段を、更に含むことを特徴とする請求項 2 記載の携帯電話機。

【請求項 4】 前記呼び出し制御手段は、前記表示部におけるカーソル操作に従って、前記メモリに登録されている他の画像を順次呼び出して前記待受画面上に表示するようにしたことを特徴とする請求項 3 記載の携帯電話機。

【請求項 5】 前記メモリへの登録画像のサイズは、前記待受画面の画像サイズと同等であることを特徴とする請求項 2～4 いずれか記載の携帯電話機。

【請求項 6】 前記メモリは、固定容量であることを特徴とする請求項 1～5 いずれか記載の携帯電話機。

【請求項 7】 前記メモリへの登録量が当該メモリの最大登録量に達した時に警告を発生する手段を、更に含むことを特徴とする請求項 1～6 いずれか記載の携帯電話機。

【請求項 8】 カメラ及び表示部を有する携帯電話機の動作制御方法であって、

前記カメラによる撮影画像のメモリへの最初の登録時に、画像が登録されていることを示すためのアイコンを作成して前記表示部へ表示すると共に、以後の撮

影画像は前記アイコンに関連するものとして前記メモリへ登録する登録制御ステップ、  
を含むことを特徴とする動作制御方法。

【請求項 9】 前記アイコンを前記表示部の待受画面に表示するよう制御する表示制御ステップを、更に含むことを特徴とする請求項 8 記載の動作制御方法。

【請求項 1 0】 前記待受画面の前記アイコンの選択操作に応答して、前記メモリに登録されている画像の一つを呼び出して前記待受画面上に表示する呼び出し制御ステップを、更に含むことを特徴とする請求項 9 記載の動作制御方法。

【請求項 1 1】 前記呼び出し制御ステップは、前記表示部におけるカーソル操作に従って、前記メモリに登録されている他の画像を順次呼び出して前記待受画面上に表示するようにしたことを特徴とする請求項 1 0 記載の動作制御方法。

【請求項 1 2】 前記メモリへの登録画像のサイズは、前記待受画面の画像サイズと同等であることを特徴とする請求項 9 ～ 1 1 いずれか記載の動作制御方法。

【請求項 1 3】 前記メモリへの登録量が当該メモリの最大登録量に達した時に警告を発生するステップを、更に含むことを特徴とする請求項 8 ～ 1 2 いずれか記載の動作制御方法。

【請求項 1 4】 カメラ及び表示部を有する携帯電話機の動作制御方法をコンピュータにより実行させるためのプログラムであって、

前記カメラによる撮影画像のメモリへの最初の登録時に、画像が登録されていることを示すためのアイコンを作成して前記表示部へ表示すると共に、以後の撮影画像は前記アイコンに関連するものとして前記メモリへ登録する登録制御ステップ、  
を含むことを特徴とするコンピュータ読取り可能なプログラム。

【請求項 1 5】 前記アイコンを前記表示部の待受画面に表示するよう制御する表示制御ステップを、更に含むことを特徴とする請求項 1 4 記載のプログラム。

【請求項 1 6】 前記待受画面の前記アイコンの選択操作に応答して、前記メモリに登録されている画像の一つを呼び出して前記待受画面上に表示する呼び出し制御ステップを、更に含むことを特徴とする請求項 1 5 記載のプログラム。

【請求項 1 7】 前記呼び出し制御ステップは、前記表示部におけるカーソル操作に従って、前記メモリに登録されている他の画像を順次呼び出して前記待受画面上に表示するようにしたことを特徴とする請求項 1 6 記載のプログラム。

【請求項 1 8】 前記メモリへの登録量が当該メモリの最大登録量に達した時に警告を発生するステップを、更に含むことを特徴とする請求項 1 4 ～ 1 7 いずれか記載のプログラム。

#### 【発明の詳細な説明】

##### 【0 0 0 1】

##### 【発明の属する技術分野】

本発明は携帯電話機及びその動作制御方法に関し、特にカメラを搭載して画像を撮影する機能を有する携帯電話機及びその動作制御方法に関するものである。

##### 【0 0 0 2】

##### 【従来の技術】

最近の携帯電話機には、カメラを搭載して画像を撮影し、この撮影された画像を処理してアルバムとして保存したり、電子メールに添付して相手に送信したりする機能がある。この様な画像処理機能の一つの使い方として、例えば、撮影画像をメモ帳代りに用いることが考えられる。すなわち、バスや電車、更には地下鉄等の公共交通機関の時刻表を、バス停や駅において、携帯電話のカメラで撮影してメモ代りに保存しておき、後で必要に応じてこれを読出して確認するという使い方が考えられる。

##### 【0 0 0 3】

この場合、交通機関の時刻表全体を、携帯電話機のカメラで一度に撮影することは不可能であり、一枚の時刻表を複数回に分けて撮影し、複数枚の画像として保存することになる。特に、上述した時刻表は、平日のものと、日曜及び祝祭日のものとが存在するために、両方の時刻表が必要な場合には、撮影画像の枚数は更に増大することになる。

## 【 0 0 0 4 】

これ等複数の撮影画像をメモリに保存して登録する必要があるが、各画像毎に、撮影操作と登録操作とが必要である。また、複数枚に分割して登録されている画像を見る場合には、1枚毎に登録画像を呼び出す操作が必要である（例えば、非特許文献 1 参照）。

## 【 0 0 0 5 】

## 【非特許文献 1】

2 0 0 1 年 1 2 月、Ｊ－フォン株式会社発行、Ｊ－ＳＨ 0 8 取扱説明書、基本操作編、第 5 0 ～ 5 3 頁

## 【 0 0 0 6 】

## 【発明が解決しようとする課題】

上述した様な時刻表等を、メモ代りに撮影してメモリに登録して、後でそれを確認したり見たりする場合には、画像を複数枚に分割せざるを得ないために、登録操作及び呼出し操作が煩雑になるという問題がある。また、複数枚の登録画像のうち、ユーザが希望する一つの画像のみを抽出して見たい場合、例えば上記の時刻表では、ある時間帯のもののみを見たい場合、どの登録画像が自分の見たいものかを判断することが困難であり、よって所望の画像が得られるまで、呼出し操作を繰返ささなければならないという問題もある。更に、携帯電話の内蔵メモリの高容量化、外部拡張メモリの増設により、検索対象である画像枚数が増大しており、よって呼出し操作回数がそれに伴って増加するという問題もある。

## 【 0 0 0 7 】

上述した複数枚の画像をメモリに登録する場合、各登録画像に対して、インデックス用のアイコン（絵文字）をそれぞれ対応づけておき、このアイコンを表示画面の上部や下部に表示するようにし、ユーザが見たい画像を選択的に呼び出し表示させる場合には、対応するアイコンを選択操作するような方法が考えられる。しかしながら、この様な方法では登録画像毎にアイコンが必要となり、制御部（ＣＰＵ）の負荷が増大すると共に、アイコンの表示画面上での表示数には制限があるために、登録画像の枚数もそれに伴って制限されるという欠点がある。

## 【 0 0 0 8 】

本発明の目的は、メモ代りに撮影した画像の登録や呼出し操作を極めて簡単化し、ユーザに負担をかけることがないようにした携帯電話機及びその動作制御方法を提供することである。

#### 【0 0 0 9】

本発明の他の目的は、複数枚の登録画像のうち所望の 1 枚を選択して見たい場合に、極めて簡単な操作でそれを可能とする携帯電話機及びその動作制御方法を提供することである。

#### 【0 0 1 0】

本発明の更に他の目的は、単一のアイコンのみで複数の撮影画像を登録可能とし、登録画像の数に比例してアイコンの数が増大しないようにした携帯電話機及びその動作制御方法を提供することである。

#### 【0 0 1 1】

##### 【課題を解決するための手段】

本発明による携帯電話機は、カメラ及び表示部を有する携帯電話機であって、前記カメラによる撮影画像を登録するメモリと、前記撮影画像の前記メモリへの最初の登録時に、画像が登録されていることを示すためのアイコンを作成して前記表示部へ表示すると共に、以後の撮影画像は前記アイコンに関連するものとして前記メモリへ登録する登録制御手段とを含むことを特徴とする。

#### 【0 0 1 2】

更に、前記アイコンを前記表示部の待受画面に表示するよう制御する表示制御手段を含むことを特徴とする。更にはまた、前記待受画面の前記アイコンの選択操作に応答して、前記メモリに登録されている画像の一つを呼び出して前記待受画面上に表示する呼び出し制御手段を含むことを特徴とする。

#### 【0 0 1 3】

そして、前記呼び出し制御手段は、前記表示部におけるカーソル操作に従って、前記メモリに登録されている他の画像を順次呼び出して前記待受画面上に表示するようにしたことを特徴とする。また、前記メモリへの登録画像のサイズは、前記待受画面の画像サイズと同等であることを特徴とし、前記メモリは固定容量であることを特徴とする。また、前記メモリへの登録量が当該メモリの最大登録



量に達した時に警告を発生する手段を、更に含むことを特徴とする。

#### 【0014】

本発明による動作制御方法は、カメラ及び表示部を有する携帯電話機の動作制御方法であって、前記カメラによる撮影画像のメモリへの最初の登録時に、画像が登録されていることを示すためのアイコンを作成して前記表示部へ表示すると共に、以後の撮影画像は前記アイコンに関連するものとして前記メモリへ登録する登録制御ステップを含むことを特徴とする。

#### 【0015】

更に、前記アイコンを前記表示部の待受画面に表示するよう制御する表示制御ステップを含むことを特徴とする。更にはまた、前記待受画面の前記アイコンの選択操作に応答して、前記メモリに登録されている画像の一つを呼び出して前記待受画面上に表示する呼び出し制御ステップを含むことを特徴とする。

#### 【0016】

そして、前記呼び出し制御ステップは、前記表示部におけるカーソル操作に従って、前記メモリに登録されている他の画像を順次呼び出して前記待受画面上に表示するようにしたことを特徴とする。また、前記メモリへの登録画像のサイズは、前記待受画面の画像サイズと同等であることを特徴とする。また、前記メモリへの登録量が当該メモリの最大登録量に達した時に警告を発生するステップを、更に含むことを特徴とする。

#### 【0017】

本発明によるプログラムは、カメラ及び表示部を有する携帯電話機の動作制御方法をコンピュータにより実行させるためのプログラムであって、前記カメラによる撮影画像のメモリへの最初の登録時に、画像が登録されていることを示すためのアイコンを作成して前記表示部へ表示すると共に、以後の撮影画像は前記アイコンに関連するものとして前記メモリへ登録する登録制御ステップを含むことを特徴とする。

#### 【0018】

本発明の作用を述べる。カメラによる撮影画像をメモ代りに用いるいわゆるピクチャメモ機能において、ピクチャメモ用メモリを設け、ピクチャメモのための

画像をこのメモリに登録するに際して、最初の登録時にのみ、自動的にピクチャメモアイコンを作成してデスクトップアイコンとして表示し、以降のピクチャメモ登録時には、アイコン作成を行うことなく、当該アイコンに関連するものとして、順次画像を当該メモリへ登録する。よって、簡単にピクチャメモの登録が可能である。

#### 【0019】

また、ピクチャメモ呼出し時には、待受画面におけるデスクトップアイコンのうちピクチャメモアイコンを選択することにより、一つのピクチャメモが呼出されて待受画面上に表示される。ユーザが希望するピクチャメモを選択したい場合は、カーソルキー操作により登録されている他のピクチャメモを順次表示するようにすることで、希望のピクチャメモが、簡単に選択できることになる。

#### 【0020】

##### 【発明の実施の形態】

以下に、図面を参照しつつ本発明の実施の形態について詳述する。図1は本発明の実施の形態における携帯電話機の概略機能ブロック図である。図1を参照すると、操作部1は各種の操作キーが配列されたキー操作部であり、表示部2はLCD（液晶表示装置）からなり、メインのLCDとサブ（背面）のLCDとを有しており、メインLCDはユーザと対向する位置に設けられ、サブLCDはこのメインLCDの背面位置に設けられている。表示制御部3はこれ等メインLCDとサブLCDからなる表示部2の表示制御を行う。

#### 【0021】

制御部4はCPUであり、図1に示す各部の制御を行うものであって、ROM12に格納されているプログラム手順に従って動作し各部制御をなす。カメラ5はサブLCDと同一面に取り付けられており、カメラ制御部6により制御される。無線部7は図示せぬ基地局との間の無線通信を行う機能を有している。これ等各部はバス13により相互接続されている。

#### 【0022】

図1において、バス13より下側に示されているメモリ8～12は記憶媒体であって、ピクチャメモ用メモリ8は本発明において用いられるメモリであり後述

する。アルバム用メモリ 9 はカメラ 5 により撮影された画像をアルバム用として保存するためのメモリであり、待受用メモリ 10 は待受画面用のメモリである。作業用メモリ 11 は CPU 4 の処理時において用いられるワークメモリである。なお、ROM 12 は、前述した如く、CPU 4 を動作させるためのプログラムを格納した読出し専用のメモリである。これ等メモリ 8 ～ 12 もバス 13 に接続されている。

#### 【0023】

図 1 において、ピクチャメモ用メモリ 8 は、カメラ 5 による撮影画像をメモ代りに登録しておくときに用いられるメモリであり、通常 of アルバム用メモリ 9 とは区別して設けられている。このピクチャメモ用メモリ 8 はピクチャメモ機能が選択されたときに有効となり、撮影画像を登録するもので、このメモリ 8 の撮影画像のサイズは待受画面（待受用メモリ 10 に登録されている）のサイズと同一であり、ズーム固定となっているものとする。なお、待受画面は一定サイズであり、よって待受用メモリ 10 は固定容量となっている。またアルバム用メモリ 9 の撮影画像のサイズは複数種類あり、ズーム可変となっていることは従来どおりである。

#### 【0024】

図 2, 3 は本発明の実施の形態におけるピクチャメモ機能選択時の動作を示すフローチャートである。表示部 2 にメニューが表示されている状態において（ステップ S1）、ユーザが“カメラ”を選択すると（ステップ S2）、それに応答してサブメニューの表示がなされる（ステップ S4）。なお、ステップ S2 において、“カメラ”以外の選択がなされた場合には、選択された処理へ進むことになる（ステップ S3）。

#### 【0025】

このサブメニュー表示状態において、ユーザが“ピクチャメモ”を選択すると（ステップ S5）、それに応答してデスクトップアイコンが既に 8 件登録されているかどうか判定される（ステップ S7）。デスクトップアイコンとは、図 4 に示す表示部 2 の表示例に示す如く、表示画像部 21 の下部に表示される各種アイコン 22 のことであり、表示部 2 における制約から、例えば、最大 8 件のアイ

コンが登録可能であるために、既登録済みアイコンが8件存在すれば、ピクチャメモ用アイコンの新規登録が不可能であり、よってステップS7の判定を行うようになっている。ステップS7において、肯定(Y)の判定がなされれば、「デスクトップが一杯です。アイコンの貼り付けができません。」等の警告を表示する(ステップS9)。なお、ステップS5において、“ピクチャメモ”以外の選択がなされた場合には、選択された処理、例えば通常の撮影等の処理へ進む(ステップS6)。

#### 【0026】

それと同時に、ピクチャメモ用メモリ8における既登録済み画像が10枚かどうか判定される(ステップS8)。ピクチャメモ用メモリ8には、そのメモリ容量の制約から、例えば、最大10枚の画像が登録可能であるために、当該ステップS8の判定がなされるようになっている。この判定が肯定(Y)であれば、「ピクチャメモが一杯です。登録できません。」等の警告を表示する(ステップS9)。なお、ステップS7及びS8において、共に肯定(Y)の判定がなされたときには、ピクチャメモが一杯である旨の警告を、先に表示するものとする。

#### 【0027】

ステップS7、S8において共に否定(N)の判定がなされると、ピクチャメモ撮影時のカメラビューモードへ遷移し(ステップS10)、画像サイズが待受画サイズに固定される(ステップS11)。そして、背面に設けられているサブLCDのファインダ切替えが停止される(ステップS12)。その理由は、ピクチャメモ機能時には、背面のサブLCDと同一面に取付けられているカメラを、被写体である、例えば時刻表等に向けて撮影し、そのときのファインダとして、メインLCDである図4の表示部2の表示部画像部21がその機能を果すようにしているからである。

#### 【0028】

次に、ピクチャメモが(ピクチャメモ用メモリ8に)既に登録されているかどうか判定される(ステップS13)。登録されていなければ、カメラ撮影がなされることになる(ステップS14)。この撮影画像はピクチャメモ用メモリ8へ登録される(ステップS15)。このとき、ピクチャメモ用メモリへの登録(

ピクチャメモ登録) は始めてであるために、この時点において、ピクチャメモアイコン (タイトルはピクチャメモ) が自動的に作成され、図 4 の表示画像部 2 1 の下部のアイコン 2 2 に追加貼付け表示される (ステップ S 1 6)。

#### 【0 0 2 9】

このピクチャメモアイコンは、ピクチャメモリ用メモリ 8 にピクチャメモが登録されていることを示すためのアイコンであって、以降のピクチャメモの登録時には、アイコン作成は行われず、当該メモリ 8 の容量により定まるピクチャメモ登録可能枚数までの登録には、最初のピクチャメモ登録時に作成されたピクチャメモアイコンが使用されることになる。よって、このピクチャメモアイコンにより、最大 1 0 枚までのピクチャメモがこのアイコンに関連するものとして、メモリ 8 内に登録されることになる。

#### 【0 0 3 0】

ピクチャメモ登録可能枚数は最大 1 0 枚であるので、その登録枚数のチェックが行われ (ステップ S 1 7)、1 0 枚に達するまでは、ピクチャメモ終了の操作がない限り (ステップ S 1 8)、次のピクチャメモ撮影及び登録処理が続行されることになる (ステップ S 2 0, S 2 1, S 1 7 等の処理)。

#### 【0 0 3 1】

上述したステップ S 1 3 において、ピクチャメモ登録が既に行われていれば、前述した如く、以前に作成されているピクチャメモアイコン (ステップ S 1 6) がそのまま用いられて表示される (ステップ S 1 9)。以降は、ステップ S 2 0, S 2 1 の処理が行われ、ピクチャメモ登録枚数が最大値 1 0 枚を超えれば、「ピクチャメモが一杯です。登録できません。」等の警告表示を行う (ステップ S 2 2)。

#### 【0 0 3 2】

この様にして登録されているピクチャメモを呼び出して見る場合の動作が、図 5 のフローチャートに示されている。図 5 を参照すると、待受画面表示中に (ステップ S 3 1)、図 4 の表示画像部 2 1 の下部に貼り付けられているアイコン 2 2 のうち、ピクチャメモアイコンをユーザが選択すると (ステップ S 3 2)、これに応答してピクチャメモリ 8 から 1 枚目のピクチャメモである画像が呼

出されて、待受画面の表示画像部 21（図 4 参照）上に、重ねて表示される（ステップ S33）。

#### 【0033】

ユーザが希望するピクチャメモを探す場合には、操作部 1 のキーのうちカーソルキー（上下左右の矢印のついたキー）を操作することにより、ピクチャメモ用メモリ 8 内に登録されているピクチャメモに対応する画像が、当該カーソルに応じて次々に待受画面上に表示される（ステップ S35）。ユーザが希望するピクチャメモが表示されたときに、カーソル操作を停止すれば、所望のピクチャメモが待受画面上に表示されることになる。クリア操作に応答して（ステップ S36）、待受画面に戻り（ステップ S37）、処理終了となる。

#### 【0034】

なお、ピクチャメモ用メモリ内の画像を削除することにより、ピクチャメモ撮影時のカメラビューモード（ステップ S10）へ遷移するようになっているものとする。

#### 【0035】

上述した如く、カメラによる撮影画像をメモ代りに用いるピクチャメモ機能において、ピクチャメモ用メモリを設け、ピクチャメモのための画像を当該ピクチャメモ用メモリに登録するに際して、最初の登録時に、自動的にピクチャメモ用アイコンを作成してデスクトップアイコンとして表示し、以降のピクチャメモ登録時は、アイコン作成を行うことなく、当該アイコンに関連するものとして、順次画像をピクチャメモ用メモリへ登録するようにしている。そのために、ピクチャメモ登録時における CPU の負荷の増大もなく、またユーザの操作も極めて簡単となる。

#### 【0036】

また、ピクチャメモの呼出し時には、待受画面におけるデスクトップアイコンのうちピクチャメモアイコンを操作すると、この待受画面上に、1 つのピクチャメモの登録画像が表示されることになり、以降ユーザが希望するピクチャメモを見たい場合には、カーソルキーを用いて順次登録画像を呼出すようにしている。そのために、ピクチャメモ呼出し時のユーザの操作も極めて簡単化されるのであ

る。更に、アルバム用メモリ 9 とは別にピクチャ用メモリ 8 を設けることで、アルバム用メモリ 9 の使用状況にかかわらず、ピクチャメモの撮影が可能となり、これによりピクチャメモ用メモリ 8 の容量を固定化することができ、アルバム用メモリ 9 との間で、使用するメモリ領域を、動的に調整するという処理が不要になる。

#### 【0 0 3 7】

なお、上記の実施の形態においては、ピクチャメモ用メモリ 8 の登録画像最大枚数を 1 0 とし、デスクトップアイコンの張付け最大個数を 8 としているが、これ等数値は単に一例を示したものであって、適宜選定可能である。また、ピクチャ用メモリ 8 とアルバム用メモリ 9 とを、互いに独立して設ける様に、図 1 では示しているが、これ等は同一のメモリにおいて、領域を使い分けて用いても良いものであり、待受用メモリ 1 0 についても同様である。更に、ピクチャメモアイコンを選択した場合のメモリ 8 からの呼出し画像は、最初に登録された 1 枚目に限らず、他の画像でも良い。

#### 【0 0 3 8】

図 2、図 3 及び図 5 に示したフローは、予め ROM 1 2 にプログラムとして記録しておき、これを CPU 4 により読取って実行するようにすることができることは明らかである。

#### 【0 0 3 9】

##### 【発明の効果】

本発明による第一の効果は、メモ代りに撮影した画像（ピクチャメモ）の登録操作が簡単であり、かつ CPU の負荷も軽減できるということである。その理由は、最初の画像登録時にのみ、自動的にピクチャメモアイコンを作成表示し、以降の画像登録時には、アイコン作成を行うことなく、また、特別な登録操作をユーザに要求しないためである。

#### 【0 0 4 0】

本発明による第二の効果は、登録されたピクチャメモの呼出し操作や、複数のピクチャメモから所望のものを抽出する操作が極めて簡単化されるということである。その理由は、待受画面上のデスクトップアイコンのうちピクチャメモアイ

コンを選択するのみで、待受画面上にそのまま 1 枚目のピクチャメモが呼出し表示され、また、所望のピクチャメモを抽出するには、カーソルキーを操作するだけで良いからである。

#### 【0041】

本発明による第三の効果は、デスクトップアイコンの数を増大させることなく、複数枚のピクチャメモが登録できるということである。その理由は、単一アイコンのみで、複数枚のピクチャメモを登録可能としたためである。

#### 【図面の簡単な説明】

##### 【図 1】

本発明の実施の形態を示す機能ブロック図である。

##### 【図 2】

本発明の実施の形態におけるピクチャメモ登録時の動作を示すフローチャートである。

##### 【図 3】

本発明の実施の形態におけるピクチャメモ登録時の動作を示すフローチャートである。

##### 【図 4】

携帯電話機における表示部の表示例を示す図である。

##### 【図 5】

本発明の実施の形態におけるピクチャメモ呼出時の動作を示すフローチャートである。

#### 【符号の説明】

- 1          操作部
- 2          表示部
- 3          表示制御部
- 4          制御部（CPU）
- 5          カメラ
- 6          カメラ制御部
- 7          無線部

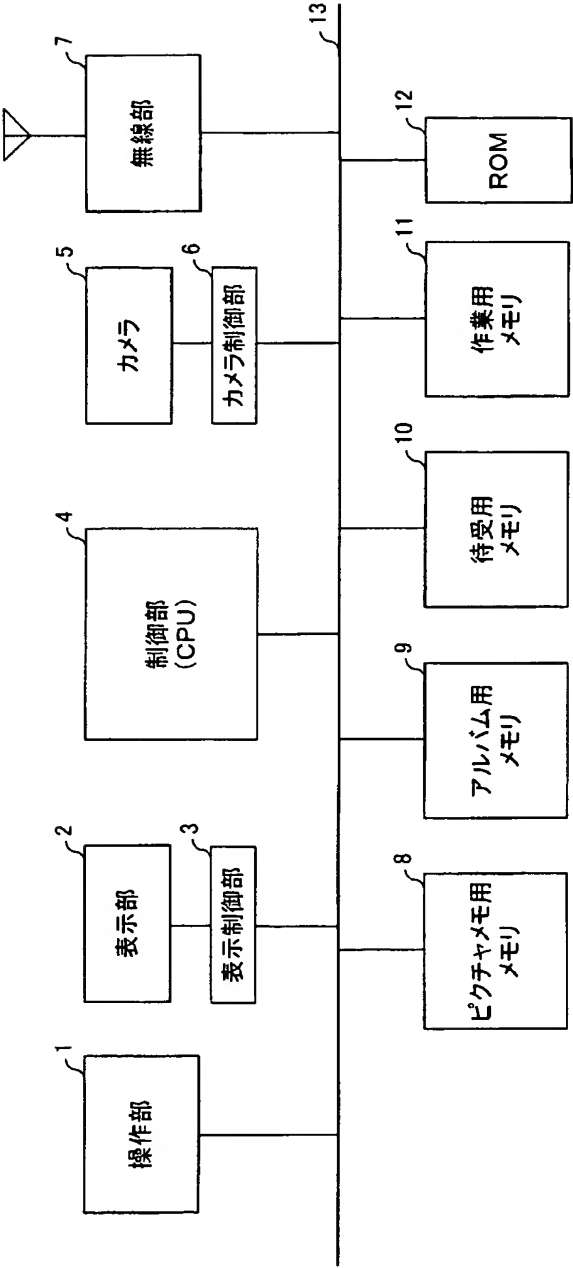


- 8        ピクチャメモ用メモリ
- 9        アルバム用メモリ
- 1 0      待受用メモリ
- 1 1      作業用メモリ
- 1 2      ROM
- 1 3      バス

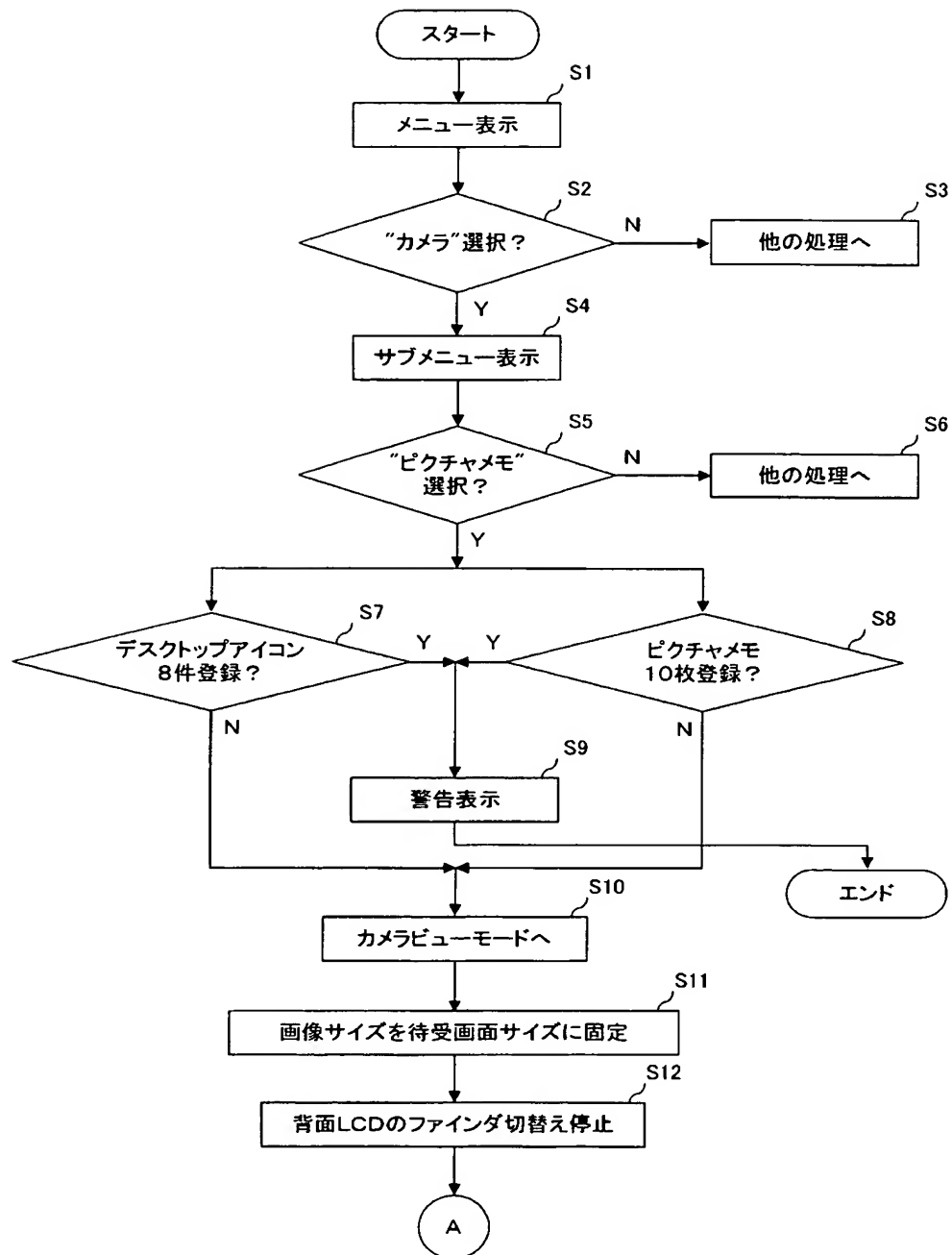


【書類名】 図面

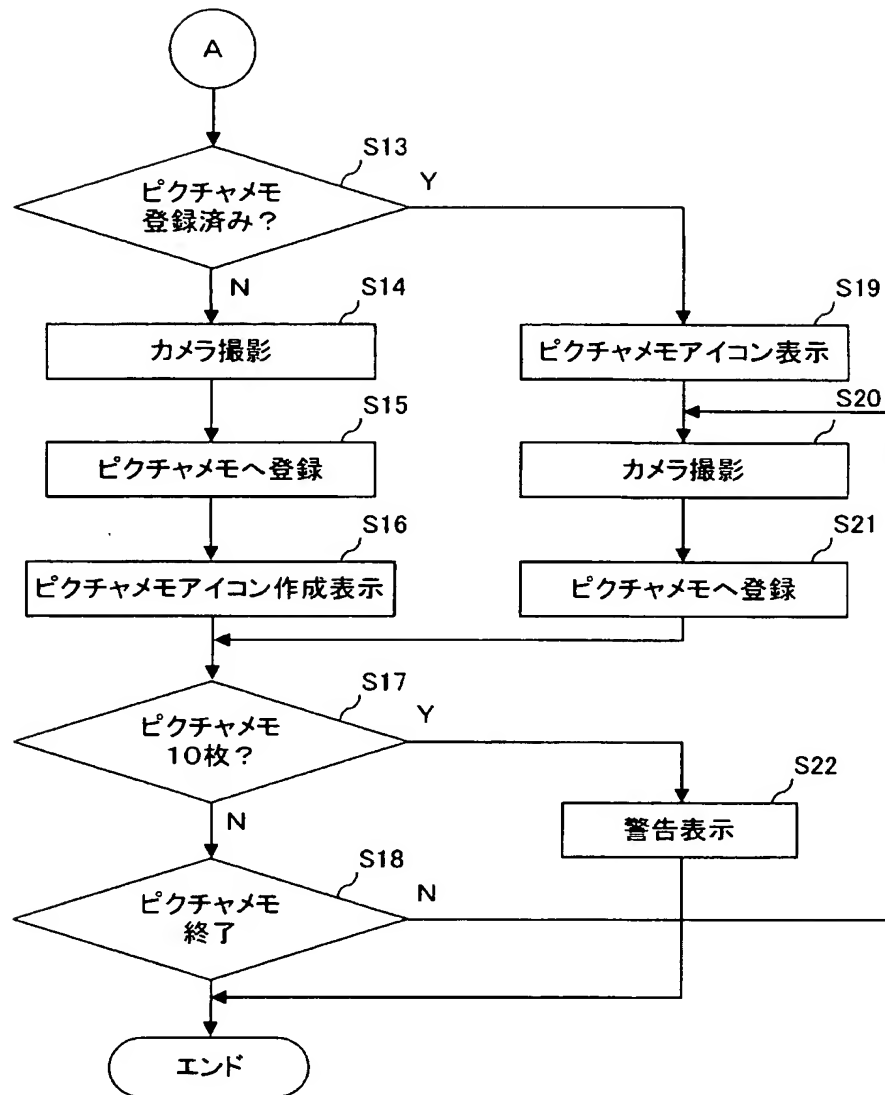
【図 1】



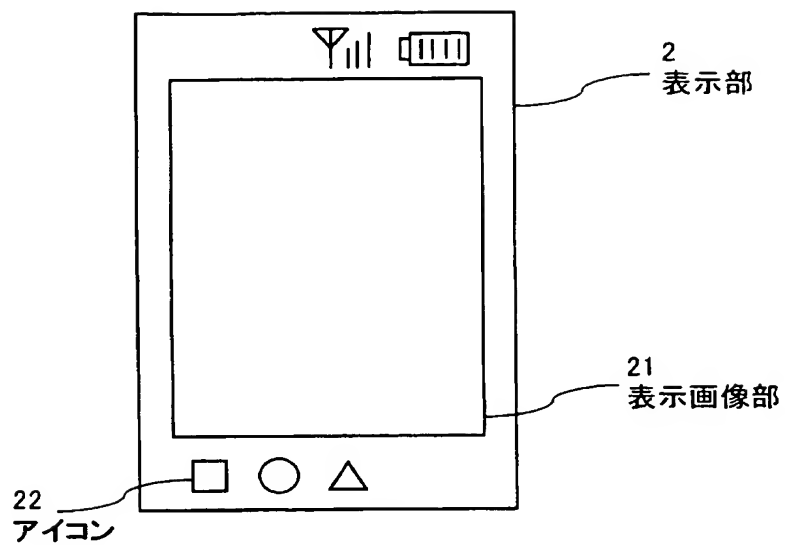
【図 2】



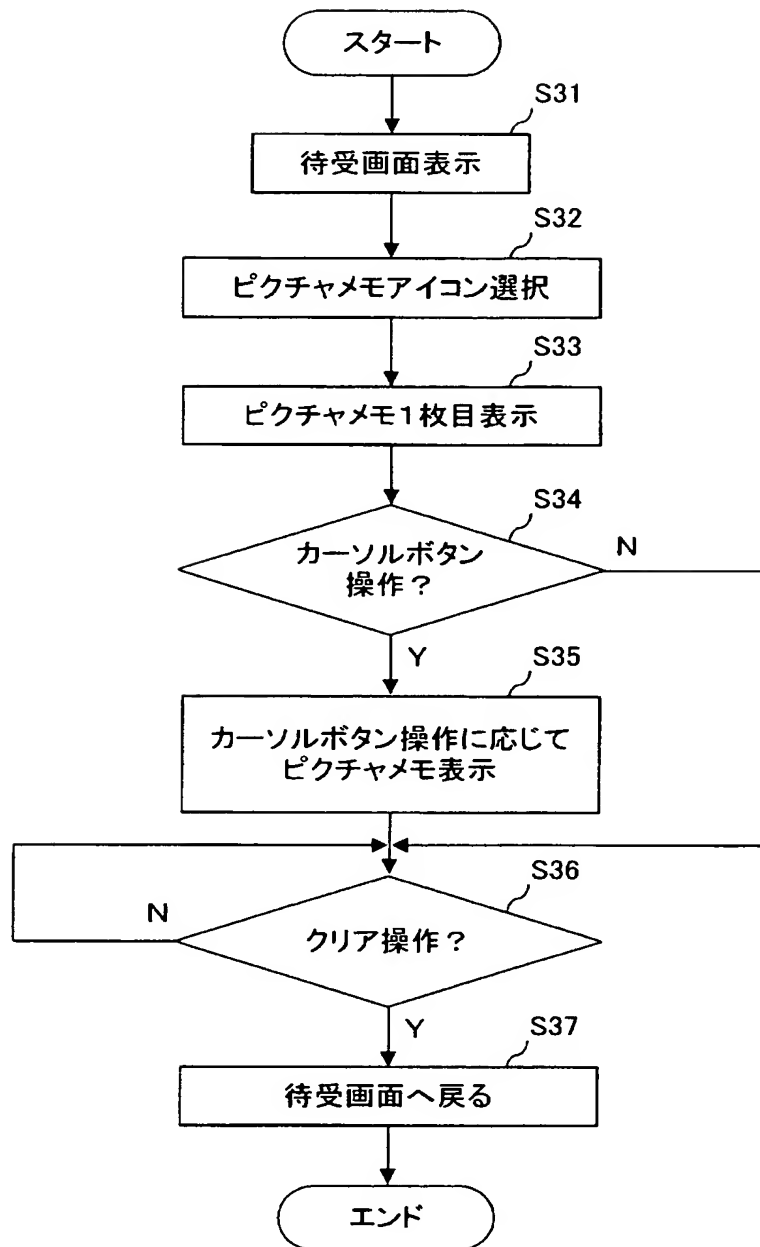
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 メモ代り撮影した画像（ピクチャメモ）をメモリに登録し再生する場合、操作性の簡素化を図る。

【解決手段】 ピクチャメモ用メモリ 8 への最初の画像登録時に、CPU 4 により、ピクチャメモアイコンを作成表示する。以降の画像登録は、ユーザの特別な操作を必要としない。登録画像呼出し時には、待受画面上のピクチャメモアイコンを選択することで、最初の登録画像が待受画面上に表示される。この表示画像以外に、ユーザが必要な画像を見たい場合には、カーソルキーを操作することにより、順次登録画像が待受画面上に表示されるので、希望する画像を容易に抽出することができる。

【選択図】 図 1



## 職権訂正履歴（職権訂正）

特許出願の番号	特願 2 0 0 2 - 2 9 2 6 1 1
受付番号	5 0 2 0 1 4 9 9 9 0 2
書類名	特許願
担当官	末武 実 1 9 1 2
作成日	平成 1 4 年 1 0 月 7 日

## &lt;訂正内容 1&gt;

訂正ドキュメント

明細書

訂正原因

職権による訂正

訂正メモ

【特許請求の範囲】欄の【請求項 1 2】を行頭訂正します。

訂正前内容

【請求項 1 1】 前記呼び出し制御ステップは、前記表示部におけるカーソル操作に従って、前記メモリに登録されている他の画像を順次呼び出して前記待受画面上に表示するようにしたことを特徴とする請求項 1 0 記載の動作制御方法。

【請求項 1 2】 前記メモリへの登録画像のサイズは、前記待受画面の画像サイズと同等であることを特徴とする請求項 9 ～ 1 1 いずれか記載の動作制御方法。

【請求項 1 3】 前記メモリへの登録量が当該メモリの最大登録量に達した時に警告を発生するステップを、更に含むことを特徴とする請求項 8 ～ 1 2 いずれか記載の動作制御方法。

訂正後内容

【請求項 1 1】 前記呼び出し制御ステップは、前記表示部におけるカーソル操作に従って、前記メモリに登録されている他の画像を順次呼び出して前記待受画面上に表示するようにしたことを特徴とする請求項 1 0 記載の動作制御方法。

【請求項 1 2】 前記メモリへの登録画像のサイズは、前記待受画面の画像サイズと同等であることを特徴とする請求項 9 ～ 1 1 いずれか記載の動作制御方法。

【請求項 1 3】 前記メモリへの登録量が当該メモリの最大登録量に達した時に警告を発生するステップを、更に含むことを特徴とする請求項 8 ～ 1 2 いずれか記載の動作制御方法。

次頁無

特願 2 0 0 2 - 2 9 2 6 1 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[ 3 9 0 0 1 0 1 7 9 ]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 9 月 2 1 日

[変更理由]

新規登録

住 所

埼玉県児玉郡神川町大字元原字豊原 3 0 0 番 1 8

氏 名

埼玉日本電気株式会社